

SUPER 耐久シリーズ 2011

第5戦&第6戦

in

ツインリンクもてぎ



東 徹次郎

TOHJIRO AZUMA

25ポイント差で迎えた最終決戦！！

優勝で決めた逆転シリーズチャンピオン！！

- ・開催サーキット：ツインリンクもてぎスーパースピードウェイ
ツインリンクもてぎロードコース（4.801km）
- ・チーム：KOTA RACING
- ・マシン：GPO+KOTA RACING NSX
- ・メンテナンス：TRACY SPORTS
- ・カーナンバー：#339
- ・クラス：ST-3
- ・ドライバー：A 北野 浩正 B 佐々木 孝太 C 東 徹次郎



予選 (11月26日)

◆Weather : 晴れ ◆Course (Super Speedway) : ドライ

Cドライバー予選は20分間です。

マシンチェックもそうですが、今回は次の日がロードコースのレースということもあり、このCドライバー予選で日曜のレースで使うブレーキパッドの焼き入れも担当しました。

ブレーキのフィーリングを確認し、徐々にブレーキポイントを奥にししながらペースを上げていきます。

前日の練習からもタイムアップさせるポイントを理解してはいたので、ブレーキの当たりが出てくると同時にタイムも上がってきます。

前日の反省から、ブレーキポイントをもっと奥にししながら高い旋回スピードを維持するようなイメージで走りました。

Bドライバー予選のときにフロントバンパーのリップが破損し、そのまま少し欠けたままの状態で行きましたが、前日より少しアンダーステアなだけで大きなバランスの変化はありませんでした。

結果、Cドライバー予選は0.023秒差でクラス2位で終わります。

タイムも出ていますしバランスも悪くなかったため、決勝に向けて良いイメージが掴めた予選となりました。

Cドライバー予選タイム : 53.193 (クラス2位)

A・B合算順位 : クラス1位

決勝（11月26日）

◆Weather：晴れ ◆Course（Super Speedway）：ドライ

オーバルのレースは2レース制です。

1レース目はAドライバーの北野選手とBドライバーの佐々木選手の2人で走り、ポールからの優勝でした。

当然自分の走る2レース目もその流れを引き継ぎたいところ。

ライバルは、1レース目でも凄まじい速さを見せていた14号車のRX-7です。ランキングトップの15号車のZももちろんマークの対象ですが、こちらはオーバルに苦しんで少し沈んでいたもので、シリーズポイントを縮めるには絶好のチャンスでした。

2レース目は佐々木選手がスタートを担当し、自分が後半を担当という作戦でした。

こちらのレースもポールポジションからスタートし、背後にピタリと14号車がついてはいましたが、順調にトップを走行していました。

しかし17周目前後にセーフティーカーが入ることになり、一気にレースは動き始めます。

当然ほとんどの車はドライバー交代をしようとピットに戻ってきます。

うちもここで交代です。

予想よりかなり早いタイミングでしたが、ここで自分がバトンを受け取ってコースへ。

セーフティーカーラン中は、とにかくウェービングとブレーキングでタイヤへの熱入れを意識していました。

再スタートは無難にこなし、自分のペースも順調でトップのまま周回を続けます。

しかし、やはり背後に来たのは14号車。

第1ターン出口の加速が14号車は非常に速く、何度も横に並ばれる状態でバックストレートでのサイド・バイ・サイドの攻防が数周に渡って続きました。

その都度ブレーキキキングと進入スピードで防いでいたのですが、とうとう守りきれず、2台並んでシケインに入った際に自分の方が逃げ場が無くなってポールを避ける様で2位に転落・・・。

抜かれた際にポールを避けたことで、少し間隔が離れてしまいました。

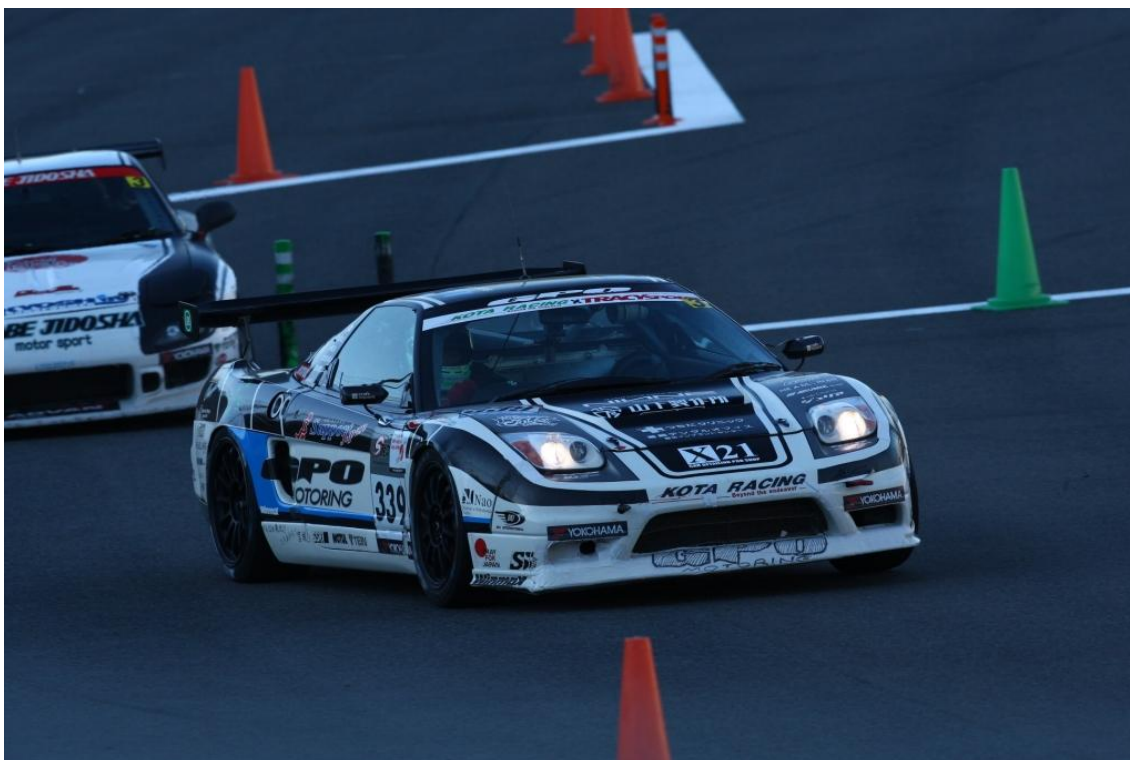
これが自分の焦りに少なからず影響していたことは間違いありません。

抜かれてから少しペースが落ちてしまい、結局再び14号車を脅かすことは出来ずに少しずつ離される容でレースを終えました。

結果は抜かれて 2 位という非常に悔しい結果したが、15 号車の Z はトラブルで長時間ピットに収まっていたため、このレースで 7 ポイント差までポイントを縮めることに成功しました。

決勝：2 位 (Total:49Laps)

※ベストラップ：52、982(Total:31Laps 走行)



予選（11月27日）

◆Weather：晴れ ◆Course（Road Course）：ドライ

今回の予選も、すでにA・Bドライバー予選でポールポジションが決まっていたので、Cドライバー予選は決勝のシミュレーションです。

燃料を60L積み、タイヤも練習で使っていた消耗しているものでコースイン。

金曜の練習で最後の課題になっていた、ブレーキのリリースとステアリングの入力、この2つを自分のテーマにして走行しました。

金曜のときよりタイムも安定するようにはなりましたが、タイヤの減り方のバランスの関係で、少しオーバーステア気味ではありました。

まずは自分で車の挙動を乱さないよう丁寧に走ります。

ブレーキングとステアリングを切れ込んでいくタイミングに集中し、立ち上がりはリアの動きをうまくアクセルでコントロールして旋回させていく。

一つ一つをしっかりと確認しながら、タイムを上げていきました。

前を走っていたRX-7の14号車とはほとんど変わらないペースでしたが、終わってみたらクラス6位くらいでした。

自分の中でももうちょっと早いペースが欲しかったですが、Cドライバー予選はどこも戦略は異なりますし、うちはうちでバランスも良く手ごたえはあったので、決勝に向けて良い流れで終えることは出来ていました。



決勝（11月27日）

◆Weather：晴れ ◆Course（Road Course）：ドライ

決勝は今回、Aドライバーである北野選手が初めて担当です。そして自分は2番目に走り、周りの状況を判断しながら佐々木選手がラストにロングでもショートでも行けるような作戦になっていました。

北野選手は順調にトップで逃げてくれ、尚且つランキングトップの15号車がパンクして脱落したため、25周目まで引っ張っていました。

そして自分に交代する際は給油のみでタイヤは無交換作戦です。

前回の富士ではエンジンかけるのが遅れてしまって少しピットでのタイムロスがあったので、今回はドライバー交代含めロス無く出ていくことに集中していました。

タイヤ無交換だと猶予は給油時間だけなので、ドライバー交代を給油中に済ませないとロスになってしまいますからね。

そして今回は無事にドライバー交代を済ませてコースインです。

初めてのフル満タンでのNSX、リアが重くなって最初はバランスが良いように感じられましたが、その重さでアンダーステア気味になりなかなかペースが上がりません。

しかもフル満タンで重い中、ブレーキに変なジャダー（振動）が発生していたので、ブレーキを労りながらなるべくABSを効かせないような走り方にしていました。

走り始めて3周目くらいには、後方に34号車のZが近づいて来ているのは見えていました。

そしてV字コーナーを立ち上がったところで、前にヴィッツが。ヴィッツと中途半端な距離で目前にはヘアピン、そしてこちらはブレーキで飛び込めないで、インに入るのを一瞬迷って立ち上がりのバックストレートで抜こうと切り替えた矢先、自分がターンインしようとステアリングを切り込む瞬間に34号車がインに飛び込んできました。

全く予期していなかったもので、完全にやられたという感情になりました。

ここが自分の甘さですかね。

そこからついて行こうと乗り方を変えていったら、少しずつタイムは上がってききましたが、依然バランスはアンダーステアの傾向でした。

残りのラップ数とシリーズを獲る上でのライバルとの位置関係など総合的に考えてここをショートステイメントにし、リアタイヤ交換をして佐々木選手に託すということになりました。

ここでの交代も無難にこなし、ロス無く佐々木選手に交代が出来ました。
ただ、自分的にはペースの上がりが遅かったこともありますし、自分自身に対する悔しさでいっぱいでした。

しかし、やはりブレーキの ABS の調子が悪かったようで、佐々木選手をもってしても最初は全然ペースが上がりませんでした。

しかし引き出しの多さはさすがです。

それでもレース終盤はハイペースを作り出し、34号車のアタックを完封してトップでマシンを連れてきてくれました。

我々が最終戦優勝という最高の結果で大逆転シリーズチャンピオンとなりました。

決勝：1位 (Total:60Laps)

※ベストラップ：2'09.592(Total:8Laps)



反省

今回一番自分自身悔しいのは、やはりオーバルもロードコースも抜かれてポジションを下げってしまったことです。

富士では抑えきったレースをただけに、抑えきれなかったことは悔しいですね。

オーバルは、レースでのベストラップは佐々木選手よりも速かったのに、抜かれてからはペースが少し落ちてしまって、焦りからミスもしてしまいましたし。しかし、練習での反省を活かして決勝の速さに繋がられたことは収穫だと感じます。

ロードコースの方は、今回非常にもがいた感じがします。

練習では久しぶりにスピンもしましたし、自分のイメージが噛み合わなくて一つ一つ修正しながらという感じでした。

ただその中でも木曜日に走ったときのコメントで金曜の占有走行のマシンのセットのベースが決まったのですが、これが良い方向に向いていたことは非常に良かったことだと言えます。

今後の課題としては、やはり短時間でパッとタイムを出すことです。

今季はスポットで乗る時間も限られていたので、もっと自分の引き出しを増やしスキルアップ出来るよう、乗れるチャンスを増やして経験値を上げていきたいと思います。



最後に

SUPER 耐久シリーズ 2011 の ST-3 クラス、逆転でシリーズチャンピオンを獲得することが出来ました。

これも皆様からの御支援、御声援のお陰です。

本当に有難うございました。

今回の最終戦もたくさんの方が現地まで応援に来てくださり、メールやお電話での応援も非常に大きな力となりました。

シリーズチャンピオンになるには全ての条件が揃わなければ獲ることは出来ませんし、最終戦前の 25 ポイント差を考えれば本当に奇跡です。

しかしチーム一丸となってみんながチャンピオンを最後まで諦めていませんでしたし、良いチーム状態であったからこそ最後まで勢いがあった逆転出来たのだと思います。

自分にとっては 4 輪に上がってから初めてのチャンピオンです。

良いチーム、そしてたくさんの方々に応援して頂いて最高の一年となりました。

今回悔しい思いをした部分もありますし来年は更に成長出来るよう、日々努力していきます。

このチャンピオンをステップにより一層頑張りますので、どうぞ今後とも宜しくお願い致します。

2011 年 12 月 4 日

東 徹次郎

